

「知の創造」を柔軟かつダイナミックに支援

京都大学の強みを生かした最先端研究の展開

京都大学では、「自由の学風」のもとに、本学の強みを活かした最先端研究を展開し、国内外の卓越した研究者が集う国際研究拠点を整備しています。2016年に設置した高等研究院は、ノーベル賞、フィールズ賞受賞者を含む本学の世界トップクラスの研究者グループと、文部科学省による世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)の二つの研究拠点を擁し、国内外から多くの若く優秀な研究者が集う研究ハブとなっています。

従来行われてきたような一つの学問分野からのアプローチでは、柔軟で斬新な発想を育むのは難しく、新たな学問領域を生み出すためには、複数の異なる分野からの視点を掛け合わせる必要があります。

高等研究院では、オープンで柔軟性に富む国際的研究環境を整備し、様々な分野の研究者が、お互いの多様なバックグラウンド

のもとに刺激し合ってアイデアを創出し、新たなサイエンスを生み出し続けています。さらに、内外の英知を集結し、次世代を担う研究人材の育成に寄与するとともに、大学改革を牽引する組織として、研究・教育活動、管理運営の両面で先進的な取組を進めています。

当研究院の取組は、ウェブサイトにて広く発信しています。 kuias.kyoto-u.ac.jp



人文・社会科学の視座を用いて、未来社会をデザインする

近年、人類が抱える課題は複雑化の一途を辿っており、その解決手法として人文・社会科学の視座が社会からこれまでになく必要とされています。この期待に応えるべく、京都大学では2022年に「人と社会の未来研究院」を設置しました。

当研究院では、以下の三つのミッションを通じて、本学の特長のひとつでもある多様な人文・社会科学の知見を社会に発信・還元していきます。

1. 文理融合・新研究分野の創生

文系URA(*)を起点とした文理融合研究の推進や、理系学生を含めた全学部生を巻き込んだ取組を企画・運営することで、「まったく新しい発想」や「誰も考えられなかった研究分野」の創出を目指します。

2. 人文・社会科学知の発信

オンライン講義、出版事業、ウェブサイトなど、さまざまな表現・方法を通じて、人文・社会科学の知を一般社会や海外に向けて積極的に届けます。

3. 産官学連携活動の強化

産官学連携のためのルートを整備し、社会的なニーズに対して人文・社会科学がどのような提案を行っていいのかについて実装的に取り組んでいきます。

* URA (University Research Administrator): 大学の研究活動を推進・支援する専門職

立ち止まって、
考える



パンデミック状況下での
人文社会科学からの発信



女性研究者活躍促進イベント

京都大学では、多様な研究者が活躍できるダイバーシティを実現する観点からの全学的な研究支援も行っています。その一環として学術研究支援室では、女性研究者が特に少ない工学研究科の所在する桂キャンパスにおいて、産学連携イベント「桂ジェンダーネットワーク(桂ジェネ)」を行いました。

当イベントは、大学・企業での女性研究者の活躍を紹介するとともに、産学間の専門分野を通じたネットワーク構築を図るもので、イベントを通じて、女子の理系選択やキャリア形成の促進、世代間のネットワーク構築につながる新たな展開も目指しています。今後もこのような活動を継続して推進していきます。

研究者キャリアの段階に合わせた様々な支援体制

1. 若手研究者の採用促進

自由闊達で独創的な発想に基づく挑戦的な課題研究に取り組む若手研究者を、学術領域を問わず世界中から募り、自由な研究環境を与える「白眉プロジェクト」については、プロジェクト創設以降、10余年にわたり京都大学独自の取組として実施しており、国内外から高い評価を受けています。これまでに採用された白眉研究者の総数は2022年9月現在で197名（文部科学省「卓越研究員事業」を活用した20名を含む。）に上り、多種多様な分野の研究者がそれぞれの研究を恵まれた環境で実施し、将来を見据えた幅広い視点と好奇心に根ざした独自の研究を実施してきました。2021年度には、優秀な若手研究者、とりわけ女性の研究が数多く積極的に応募できるように公募内容などの見直しを行いました。



2. 若手～中堅研究者への研究支援

京都大学では、研究フェーズや年齢層に応じた研究支援にも取り組んでいます。若手から中堅層の研究者を対象にした「【いしずえ】研究支援制度」は、科研費獲得における種目のステップアップや、挑戦的な課題あるいは大型種目への応募などでさらなる発展を目指したものの、残念ながら研究費を獲得できなかった研究者の再挑戦を支援する制度で、研究者にとって飛躍への大きな意欲の源泉となっています。また、ドイツ学術交流会 (DAAD) との間で、日独を中心とする研究グループ間で「国連の持続可能な開発目標 (SDGs) 達成に資するような未来につながる国際共同研究ネットワークの構築を目的とした、「【間:AIDA】京都大学・DAAD パートナーシップ・プログラム」も実施しています。

3. 研究のスタートアップ支援

着任直後からスムーズな研究活動を開始するためには、研究費の確保、研究環境の整備などが必要不可欠です。京都大学では、採用されたばかりの若手研究者を対象に、競争的研究費の獲得を目指す研究のスタートアップを研究費の面から支援する「若手研究者スタートアップ研究費」の公募を年に2回行い、2021年度には第Ⅰ期と第Ⅱ期を合わせて100件採択しています。

京都大学学術研究展開センター (KURA) の設置

我が国では、科学技術の国際競争力の向上や社会課題解決、イノベーション創出に貢献することが大学に対して期待されています。その実現には研究活動の企画・マネジメント、研究成果の活用などの多様な研究支援活動とそれに関連する業務を主体的かつ創造的に遂行するURAの存在が欠かせません。京都大学でも研究力の向上を図るためには、URAがグローバルな視点で学内外の研究動向を十分に把握したうえで研究者間の橋渡しを行い、研究活動を活性化することが必要であり、優秀なURA人材の確保と融合研究推進環境の充実が喫緊の課題となっています。



そのため、本学では、組織改変によって「学術研究展開センター」を新たに設置し、理工系部門、生命・医薬系部門、人文・社会系部門に加え、研究マネジメント・人材育成部門、融合研究創成部門を新設しました。高度な専門性を持つURA人材を育成する体制を整備するとともに、融合研究の推進と研究力強化、研究の国際化、産官学連携および大学経営戦略の企画・立案にかかる支援などを一層強化します。

さらに、「人と社会の未来研究院」(→7ページ)と連携し、人文・社会科学系の学術分野の融合研究に対する積極的な支援を行うことで、本学の基本理念である「基礎研究と応用研究、文科系と理科系の研究の多様な発展と統合」に貢献しつつ、高度専門人材輩出の拠点として、研究力強化に貢献します。

くすのき・125

京都大学創立125周年記念事業の一環として立ち上げた学内ファンドです。本学の基本理念に立ち返り、既存の価値観にとらわれない自由な発想で、次の125年に向けて調和した地球社会のビジョンを自ら描き、その実現に向けて挑戦している次世代研究者を、皆様からいただいた寄附金を用いて支援します。

1897年の創立後、大学を取り巻く環境や地球社会は大きく変化してきました。創立125周年を機に今一度歩むべき方向を見据え、学問の本質に迫る研究に取り組む次世代研究者を支援し、京都大学らしさのあふれる自由で自律的な研究ができる環境を整えることで、より魅力ある地球社会の未来像を構築・発信していきます。

くすのき・125については、下記ウェブサイトでも紹介しています。
research.kyoto-u.ac.jp/kusunoki125/



京都大学の研究者が描く、125年後の地球社会

くすのき・125 関係者紹介 | 01 |